

ECB、金融緩和を継続

ポイント① 政策金利は据え置き

6月10日に開催されたECB（欧州中央銀行）の理事会では、金融政策に大きな変更はなく、ECB預金ファシリティ金利はマイナス0.5%に据え置きとなりました。PEPP（パンデミック緊急購入プログラム）による7-9月期の資産購入ペースについても、足元では景気回復が着実に進んでいますが、米国の経済正常化に伴う債券利回り上昇を抑える為に加速させた4-6月期の購入ペースを維持する見通しです。

ポイント② 経済活動は再開が進む

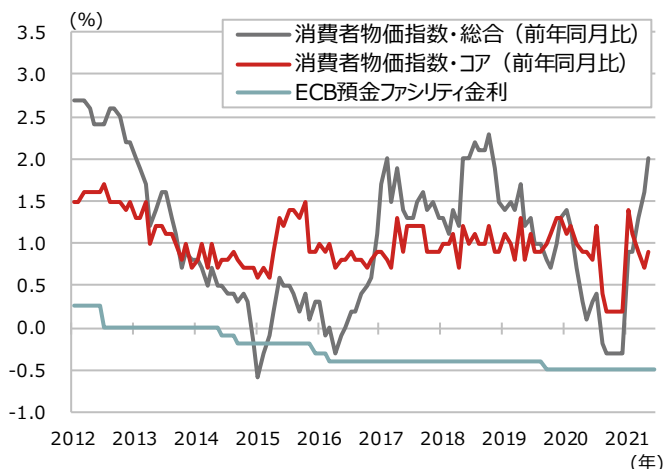
欧州では厳格な行動制限とワクチン接種ペースの加速により、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しています。ドイツでは夏までに12歳以上の全国民へのワクチン接種が完了する見通しです。行動規制の緩和も進み、観光業や飲食店をはじめとするサービス業を中心とした経済の回復は年後半にかけて更に加速すると考えられます。一方で、英国を中心にインド型の変異株の感染者数が増加していることが懸念されます。

ポイント③ ECBは難しい判断が迫られる

景気回復が物価を押し上げ、5月のユーロ圏消費者物価指数は前年比2.0%上昇となり、「2%を下回るがこれに近い水準」とするECBのインフレ目標に到達しました。ECBは足元の物価上昇は一時的なものと考えているようですが、英国ではイングランド銀行（中央銀行）が5月の会合で国債の買い入れペースの減速を決定するなど、量的緩和の縮小の動きも出始めています。ECBは緩和縮小の議論については時期尚早としており、依然として慎重な姿勢を示しています。予期せぬインフレを防ぐために、いつ行動を起こすべきなのか、金融政策のかじ取りに難しい判断が迫られています。

図1：ユーロ圏のインフレ率と政策金利

期間：2012年1月～2021年6月（10日）、月次

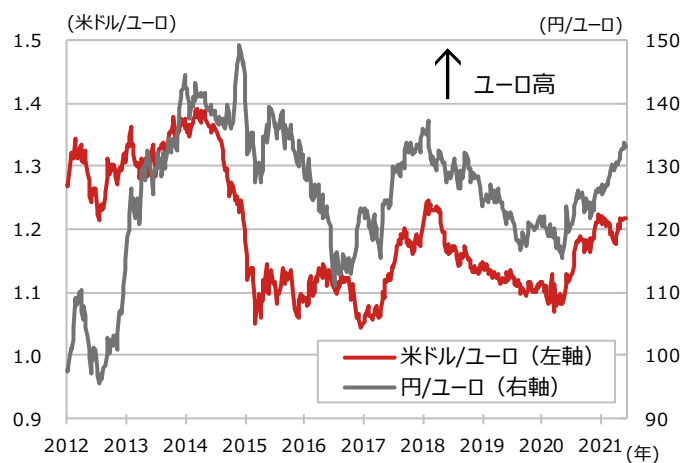


(注) 消費者物価指数は2021年5月まで。コア：エネルギー、食品、酒、たばこを除く

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：ユーロの対米ドル、対円為替レート

期間：2012年1月6日～2021年6月11日、週次



(注) 6月11日分は東京市場の午前9時頃のレート

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

6月23日 ユーロ圏総合購買担当者景気指数 (6月)

6月30日 ユーロ圏消費者物価指数 (6月、速報値)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。